

## 第1部 自然界から

### コミッサオン・チ・フレンチ 「アフリカのサバンナ」

振付 マルセーロ・ミザイリディス

構成員たちは分担して、アンゴラのサバンナに存在する様々なキャラクターを表現する。無意識の象徴であるスペース。未知の領域。そこに潜む野獣、その他あらゆる生き物。それらは我々を魅了し、同時に驚愕させる。

### メストリ・サーラとポルタ・バンデイラ(第1ペア)

ジュリオ・セザールとフッチ・アウヴェス

#### 「アンゴラの種族の力」

アンブンド族とジャガス族という二つの部族が、アンゴラの種族を構成していた。

### 第1アーラ 「アンゴラの自然の力」

アンゴラの地に暮らしていた、大昔の人々による自然を崇拝する儀式を表現する。

#### DESTACQUE・チ・シャオン 「アンゴラの天然資源」

### 第1山車 「アンゴラの野生動物」

現在アンゴラに属する地域に到着したヨーロッパ人たちを、アフリカの野生動物たちは魅了し、また同時に脅かした。

DESTACQUE ガブリエラ アンゴラ讃歌

### 第2アーラ 「シマウマ」

現在のアンゴラを含むアフリカのサバンナに棲息する哺乳動物。

### 第3アーラ 「キリン」

現在のアンゴラを含むアフリカのサバンナに棲息する哺乳動物。

### 第4アーラ 「セーブル・アンテロープ」

アンゴラの象徴である動物。

### 第5アーラ 「(アンゴラの)鳥類」

アフリカ大陸(特にアンゴラの空)に暮らす鳥類。

#### DESTACQUE・チ・シャオン 「聖なる自然の力」

## 第2山車「インボンデイロ(バオバブ)、生命の樹」

アンゴラに自生する樹木、インボンデイロ(アフリカバオバブ)は、アンゴラを代表する植物であり、聖なる樹木と考えられて、多くの詩や伝説や民話の題材となっている。

デスタッキ パウロ・サンチー「インボンデイロの守護者」

## 第2部 「アンブンド族とジャガ族」

### 第6アーラ「アンブンド族の戦士」

アンブンド族内で、戦いを担当する人々。

### 第7アーラ「アンブンド族の踊り手」

アンブンド族内で、踊りを担当する人々。

### デスタッキ・チ・シャオン「アンゴラ民族の起源」

アンゴラ民族の起源

### 第8アーラ「ジャガ族の戦士」

ジャガ族内で、戦いを担当する人々。

### 第9アーラ「ジャガ族の相談役」

ジャガ族の族長に対して助言を与える役目を担当する人々。

## 第3部 「女王ンジンガの時代」

### 第10アーラ「ンジンガ親衛隊」

女王ンジンガの忠実な警護員。盾と槍を持つ。

### デスタッキ・チ・シャオン「ンジンガ女王の宮廷の女官」

ンジンガ女王の宮殿の女官

## 第3山車「ンジンガ女王の宮廷にて」

ポルトガルの年代記およびンジンガ女王の交渉履歴に、ンジンガ・ンバンディ・ンゴラがマタンバおよびアンゴラの首長であったと記されている。有能な国家元首としての振る舞いが、ポルトガルの交渉担当者に強い印象を与えたという。

デスタッキ エヂネウソン「ンジンガ女王の宮廷の貴族」

デスタッキ アマーロ・セルジオ「女王ンジンガの時代のアフリカ人」

**第 11 アーラ 「ンジンガ女王の取り巻き」**

女王ンジンガの宮廷を構成した貴族たち。

**第 12 アーラ 「ンジンガのハーレム」**

ンジンガ女王がはべらせた男妾たち。

**第 13 アーラ(パシスタ) 「ンジンガ女王の宮廷の踊り手たち」**

ンジンガ女王の宮廷で踊りを担当した人々。

**ハイニャ・ダ・バテリア サブリーナ・サト 「アフリカの自然の具象」**

アフリカの自然の具象

**第 14 アーラ(バテリア) 「ンジンガ女王の太鼓隊」**

メストリ・ダ・バテリア パウリーニョとヴァラン

ンジンガ女王の宮廷で音楽を担当した人々。

**第4部 「奴隷貿易」**

**第 15 アーラ 「ポルトガルの奴隷商人」**

アンゴラで奴隷を調達し、その他の地、特にブラジル、における労働力として売りさばいたポルトガル人たち。

**第 16 アーラ 「捉えられた奴隷(商品)」**

アンゴラにおいてポルトガル人に捉えられ、ハイリターンの奴隷貿易の商品とされてしまった黒人たち。

**第 17 アーラ(バイアーナ) 「アフリカの記憶」**

故郷を懐かしむ気持ちから、黒人たちは自らのアフリカとの文化的つながりを重視するようになり、文化的習慣を保持してきた。

**デスタッキ・チ・シャオン 「奴隷の痛み」**

**第 4 山車 「ルワンダの港からリオデジャネイロへ: 奴隷船の航路」**

積出港であるルワンダから、リオデジャネイロ市にあったバロンゴ棧橋まで、大西洋を横断する運送に用いられたのが奴隷船だった。

**デスタッキ ジョアン・エウデル 「奴隷商人」**

## **第5部 「バロンゴ棧橋にて」**

### **第 18 アーラ 「売り子として働く男性奴隷」**

道端で物品を売り、その売り上げの大半を主人に上納していた黒人男性たち。

### **第 19 アーラ 「売り子として働く女性奴隷」**

アフーダ(ヘンルーダ／ハーブ)の小枝を道端で売り、その売り上げの大半を主人に上納していた黒人女性たち。

### **メストリ・サーラとポルタ・バンデイラ(第 2 ペア)**

チエゴ・マシャードとナターリア・ペレイラ

#### **「テレザ・クリスチーナ王女を出迎えるブラジルの貴族」**

「偉大な社会」を自認するブラジル帝国が、皇帝ペドロ 2 世の後となるテレザ・クリスチーナ王女をバロンゴ棧橋に迎える。

### **第 20 アーラ 「バロンゴ棧橋に集うブラジルの貴族」**

「偉大な社会」を自認するブラジル帝国の構成員たる貴族たちが、皇帝ペドロ 2 世の後となるテレザ・クリスチーナ王女をバロンゴ棧橋に迎える。

### **第 21 アーラ 「バロンゴ棧橋に集うブラジルの民衆」**

皇帝ペドロ 2 世の後となるテレザ・クリスチーナ王女を出迎えるべくバロンゴ棧橋に集ったブラジルの平民たち。

### **デスタッキ・チ・シャオン 「ブラジル皇帝の冠の具象」**

ブラジル皇帝の冠の具象。

### **第 5 山車 「テレザ・クリスチーナ王女のバロンゴ棧橋への到着」**

皇帝ペドロ 2 世の後としてテレザ・クリスチーナ王女を迎えるべく大改修を受けたバロンゴ棧橋の様子を表現する。奴隷たちもその到着に立ち会う。

**デスタッキ(前方下部) エルベルチ・カルヴァーリョ 「海」**

**デスタッキ(中央上部) ネウシマール・ピーリス 「アメリカの具象」**

**デスタッキ マルセーロ・モレーノ 「ブラジル皇帝ペドロ 2 世」**

## **第 6 部 「ポルトガル領アメリカにおける黒人の祝祭」**

### **第 22 アーラ 「コンガーダ」**

カトリックの要素を取り込んだアフリカ系ブラジル人の民間信仰で、コンゴの王の戴冠を表す演劇風の舞踊を含むもの。

### **第 23 アーラ 「カボクリーニョ」**

サンバの一種ともいえるカボクリーニョは、宗教的な祝祭で踊られるもので、明るい曲調の歌と意味をもった振り付けが特徴である。

### **デスタッキ・ヂ・シャオン 「フォウゲードス」**

(黒人文化を背景とする祝祭一般を具象)

### **振り付けのあるグループ 「カポエイラ」**

格闘と抵抗の手段でありかつ遊び・舞踊の一種でもある、カポエイラの演武を行う奴隷の一団。

### **第 24 アーラ 「コンゴ王の戴冠」**

アンゴラやコンゴの部族の装束を身に着けて行われる、アフリカ系ブラジル人の祝祭(フォウゲード)。宗教性の表現上イベリア半島の影響を受けたものになっている。

### **トリペー(三脚支持の小出車) 「奴隷制のブラジルにおける黒人の王たち:コンゴ王とンジンガ女王の戴冠」**

貧しい黒人やムラート(黒人の血を継ぐ混血)たちはよく、ホザリオの聖母、聖ベネゼート、聖女エフィジェニア等に祈る(という名目の)結社を組んでいた。

### **第 25 アーラ 「聖人の祭りにおけるギタリスト」**

聖人の祭りに参加してギターを演奏していた者たち。

### **第 26 アーラ 「聖人の祭りへの参加者たち」**

聖人の祭りに参加した人々の様子。

### **デスタッキ・ヂ・シャオン 「聖人の祭り」**

### **第 6 山車 「路傍の祝祭」**

奴隷たちはやがて新しい自己規定を行い、宗教や祈禱習慣を再構築し、その中から外部から咎められることのない「黒人たちの遊び」であるお祭り騒ぎや太鼓叩きを生み出した。

### **デスタッキ サムエウ・アブランシス 「カーテン」**

## デスタッキ ジョルジ・ブラス 「聖なる皇帝」

### 第7部 「サンバの誕生、、、そのアンゴラからの起源であるセンバ」

#### 第27アーラ 「チア・シアータ」

リオデジャネイロの「小アフリカ」と呼ばれた界隈に住んでいた、料理の得意なバイーア出身の女性。1916年にドンガ名義で登録された、録音されたサンバの第一号である「ペロ・テレフォーニ」は、彼女の家で作られた。

#### 第28アーラ 「オリシャの神々」

オリシャの神々への信仰は黒人解放運動の頃から続く黒人の抵抗のトレードマークである。

#### 第29アーラ(作曲部) 「マランドロ・サンビスタ」

初期のサンビスタたちは、マランドロ的な不品行やカポエイラと繋がった人々で、既に現在の我々にもサンバとわかるようなリズムを刻んでいた。

#### 第30アーラ 「アンゴラ出身のモレーナ」

ブラジルのシンガーソングライターであるシコ・ブワルキ・ヂ・オランダが作り、クララ・ヌネスが歌った歌に因んだ表現。

#### 第31アーラ 「黒人王の友人たち」

1970年代から80年代にかけて、歌手マルチーニョ・ダ・ヴィラはアンゴラ人とブラジル人の交流を深めるイベントを主催し、王と目された。

#### 第7山車 「黒人王マルチーニョとその宮廷」

G.R.E.S.ウニードス・ヂ・ヴィラ・イザベウのヴェーリャ・グワルダが、山車表現上、マルチーニョ王の宮廷を構成する王族を演じる。